

OSS セミナー in 熊本

「地域主導で実現する、 オープンスタンダードによるIT基盤改革」

オープンスタンダードコンソーシアム
www.ejapan-osc.jp



OSC推進メンバー



アドビ システムズ

SAPジャパン

サン・マイクロシステムズ

シマンテック

日本AMD

日本オラクル

日本サード・パーティ

日本BEAシステムズ

アクセンチュア

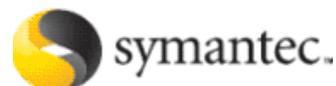
伊藤忠テクノソリューションズ

インターネットイニシアティブ

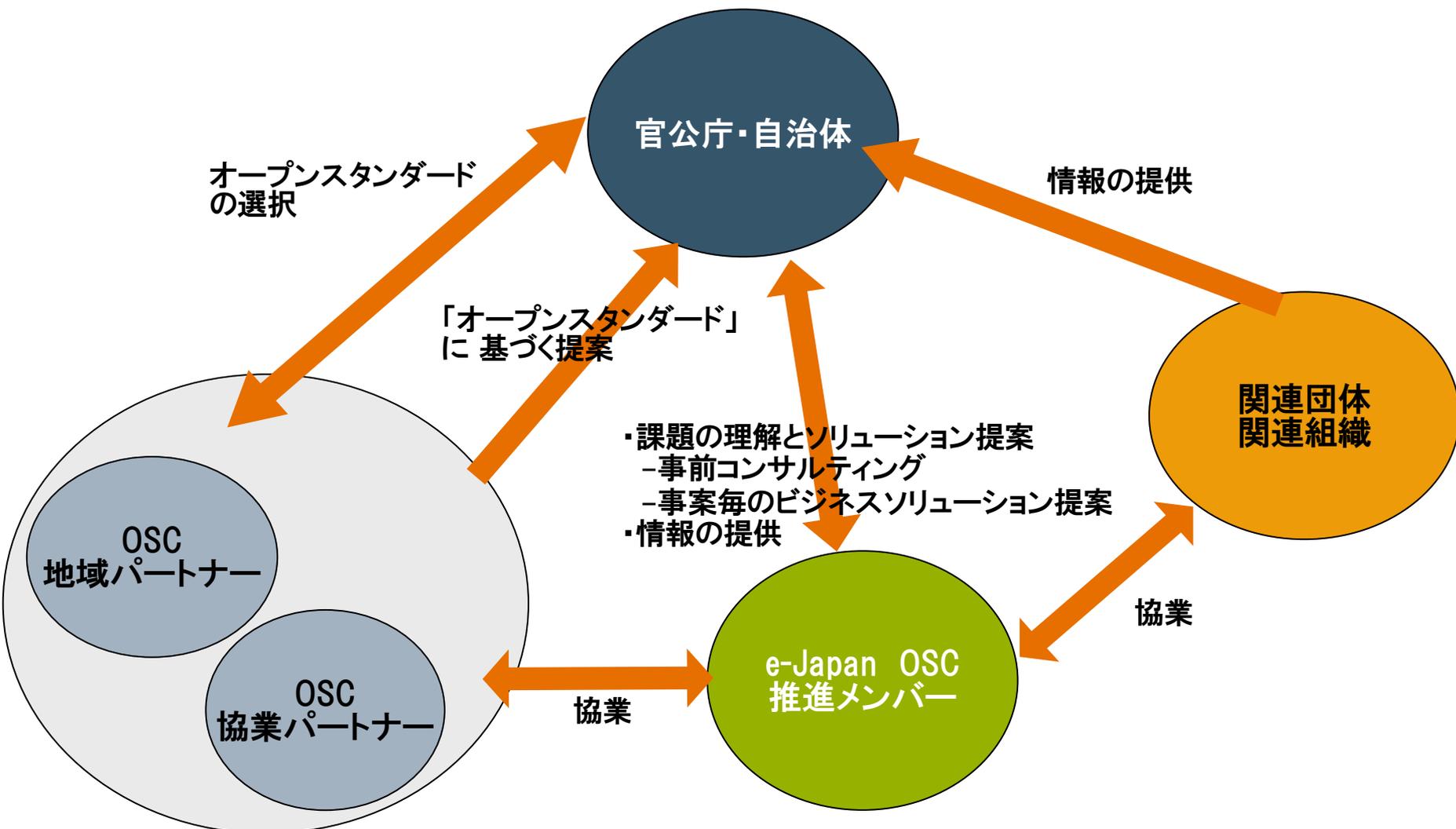
ソフトバンクテレコム

ベリングポイント

ミラクル・リナックス



OSCが提案する協業モデル



政府のITを取り巻く課題

Open
Standard
Consortium

OSC



コスト構造

ネットワークセキュリティ

ITの消費電力

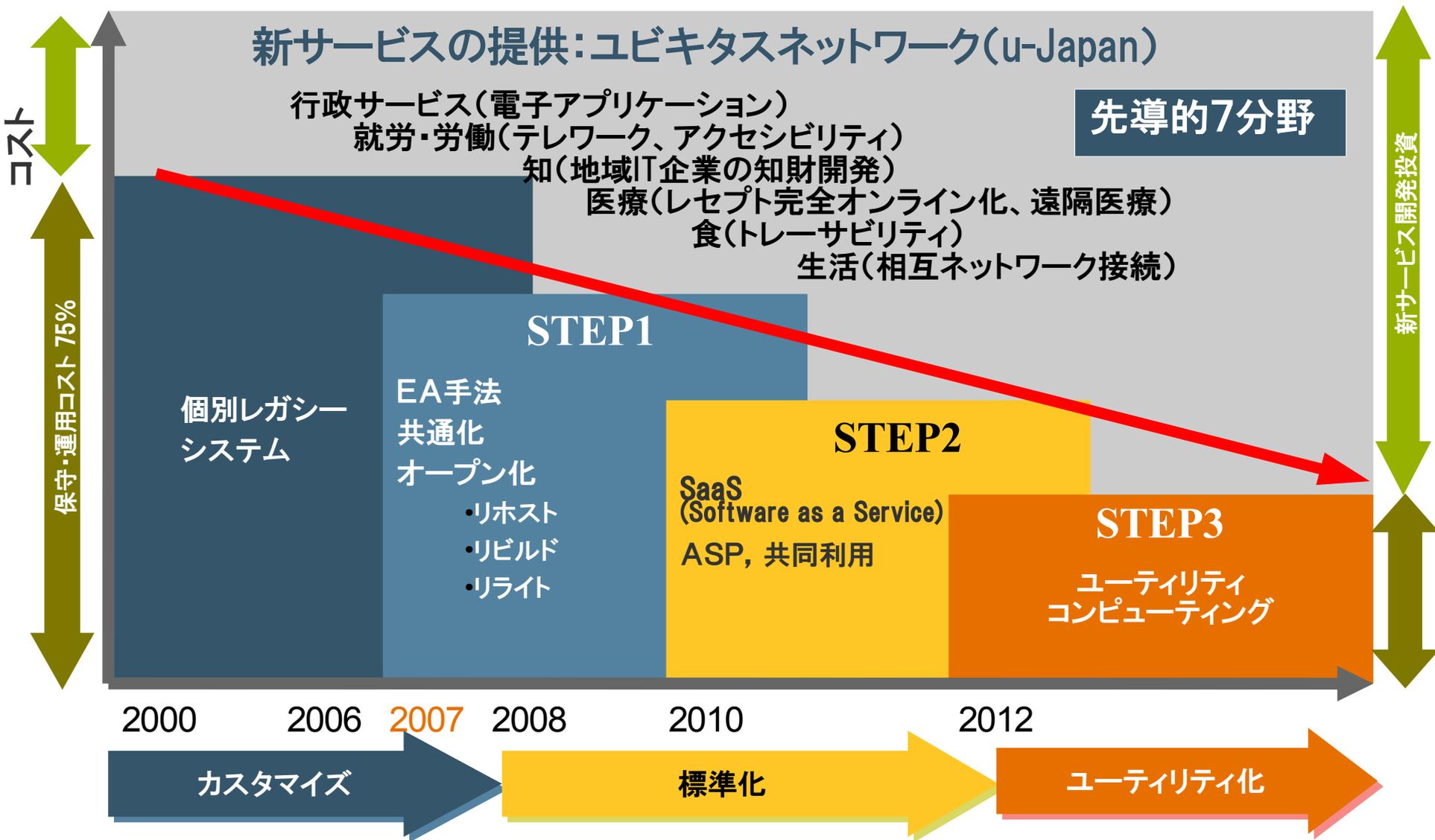
調達問題

高度IT人材不足

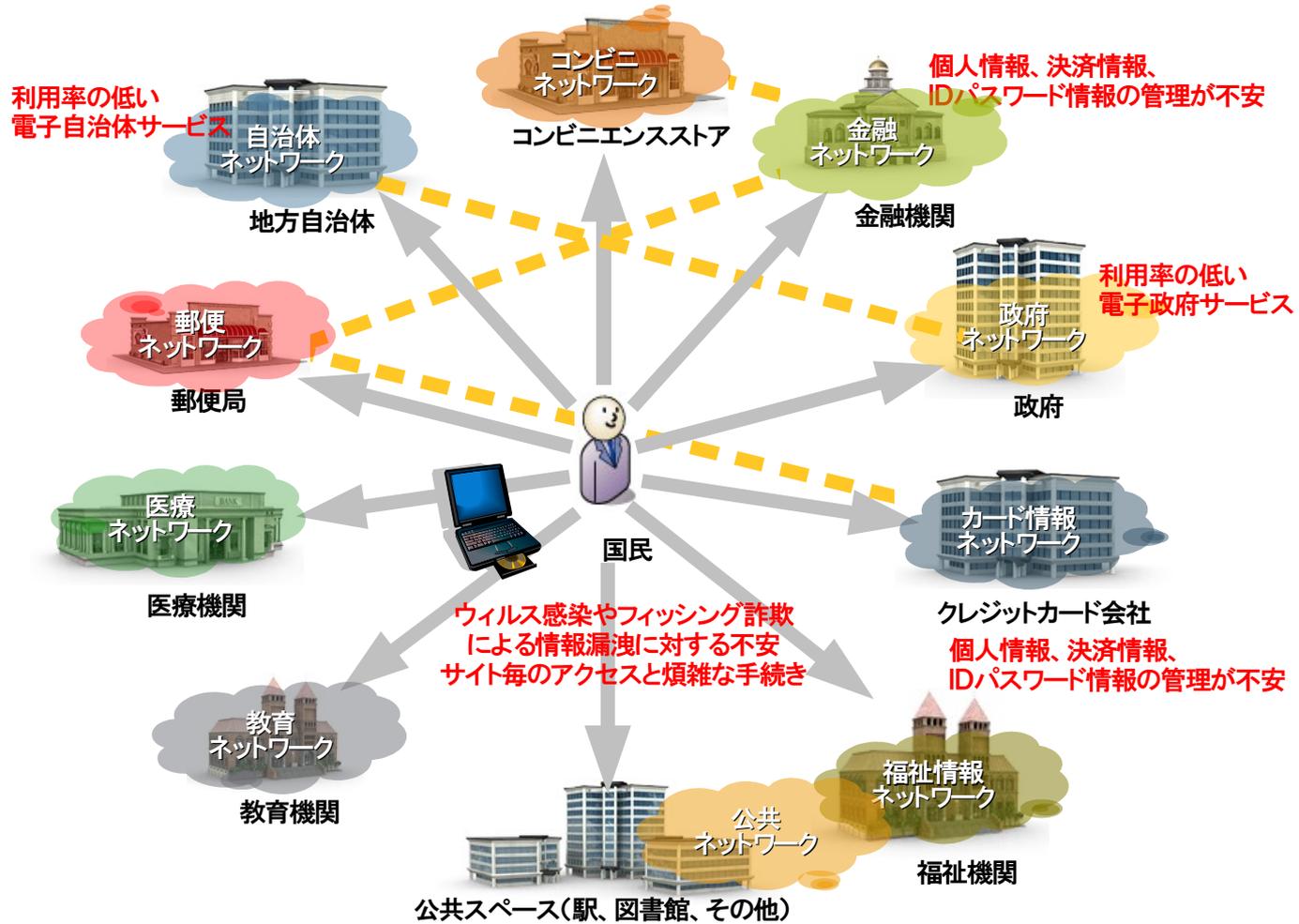
コスト構造改革によるサービス開発へのシフト

Open
Standard
Consortium

OSC



日本のネットワーク社会の現状



異なるシステム間の接続のセキュリティ確保が困難なため、サービスが分断され利便性が低くなっている

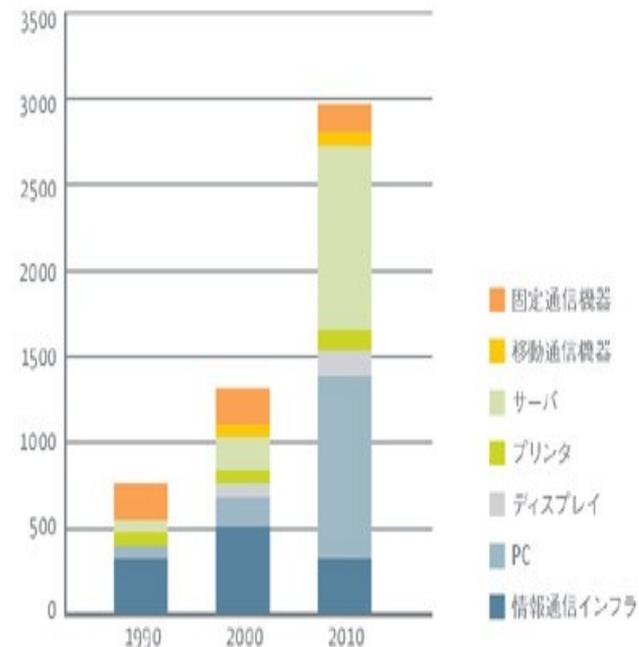


IT利用がエネルギー消費と環境に与える影響

- 京都議定書により2010年までに温室効果ガスを**6%削減**し日本は環境推進国家へ
- 世界全体のCO2排出量を現状から2050年までに半減する」との長期目標を設定、「京都議定書」に代わる国際枠組みへの米国や中国、インドなど主要排出国の参加も提唱
- 将来ITの普及により2010年の時点でその割合は、**2~3%前後**にまで上昇されると推定
- **2025年全体の20%がITに関連する。**

ITに由来するCO2排出量の推定値

単位: 万t-CO2



出典: 総務省「ITが地球環境に与える影響に関する調査」

高度IT人材不足



- > レガシーシステムを抱える官公庁担当の技術陣は、既存システムのメンテナンス作業を繰り返してきたため、新しい技術への参加が遅れた。

その結果

1. 特定のブラウザでしか動作しない申請アプリケーションが開発されたり、
2. MS/vistaで動作しないアプリケーションが開発されたり、
3. セキュリティホールの対策等を放置したり、対策に時間を要するアプリケーション構造になっていたり、
4. グリッド技術の知識を持たないため、個々にスタンバイのシステムを提案したり、

調達費に見合うだけの質の高いシステムが提供されていない。

政府IT調達ガイドラインは正確に運用されるか？

Open
Standard
Consortium

OSC

調達問題

- > 技術点・価格点(50:50)の総合評価方式は正しく機能しているか？
- > 予定価格情報は厳格に極秘と出来るか？
- > 損害賠償請求額が無制限のまま新規参入は出来るか？

真のネットワーク社会の実現に向けての必要条件



- **コスト構造改革**
 - オープンスタンダードとオープンソースによる公平な競争環境と技術革新
 - システム共通基盤によるシステムの再利用、重複開発の排除
 - SaaSやユーティリティコンピューティングへの適用
- **情報セキュリティ基盤**
 - 端末からの情報漏洩を物理的に防止、抜本的なウィルス対策
 - サーバ環境の抜本的セキュリティ対策
- **環境に優しいITインフラ**
 - 消費電力が少ない端末とサーバ環境
- **高度IT人材育成**
 - 民間担当技術陣との入れ替え
 - 高度IT人材育成及び共通基盤上でのOJT開発

ネットワーク社会を完成するために必要となるプラットフォーム



- **前提条件**

- > オープンスタンダード(+アライアンス)
- > オープンソースソフトウェア(+コミュニティ)
- > SaaSモデルの業務アプリケーションパッケージ

- **プラットフォーム**

- > ガバメントフレームワーク
- > トラストドネットワーク
- > エコ&IT
- > テレワーク環境
- > 次世代データセンター

システム形態1：個別システム(レガシー)

Open
Standard
Consortium

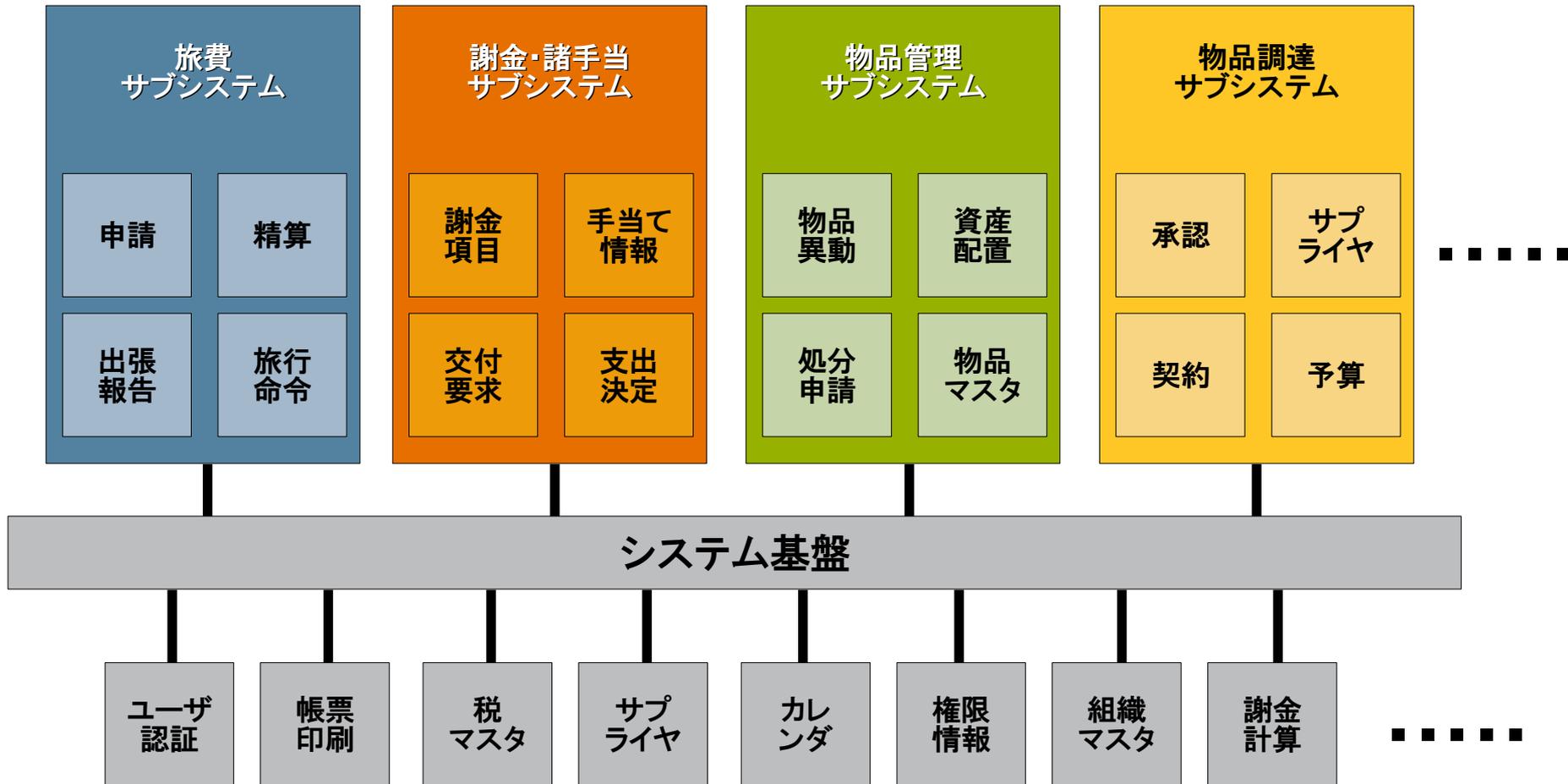
OSC



- ◆ 完全な個別システムでブラックボックス化によるベンダーロックイン状況
- ◆ それぞれのシステムに保守が必要
- ◆ データ連携には個別対応が必要
- ◆ 古い技術と新しい技術の連携が困難
- ◆ 全てが重複(個別)開発
- ◆ 大幅なメンテナンス/運用コスト

システム形態2: 共通基盤(従来型)

□ 第一次のシステム共通化(システムの粒度が中規模)



電子自治体アプリケーションシェア協議会と OSAC(OSC連携組織)



開発依頼・技術協力・技術支援・啓蒙活動

RKKコンピューターサービス
麻生情報システム
アビームコンサルティング
伊藤忠テクノサイエンス
NECソフトウェア東北

キューデンインフォコム
サン・マイクロシステムズ
仙台ソフトウェアセンター
中部テレコミュニケーション
富士通東北システムズ

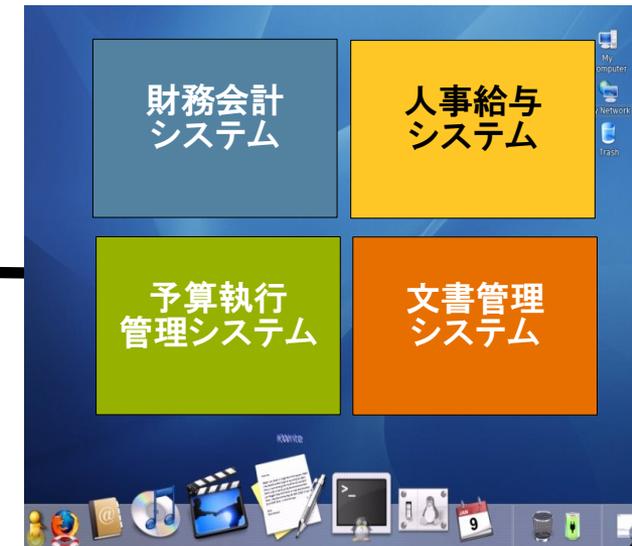
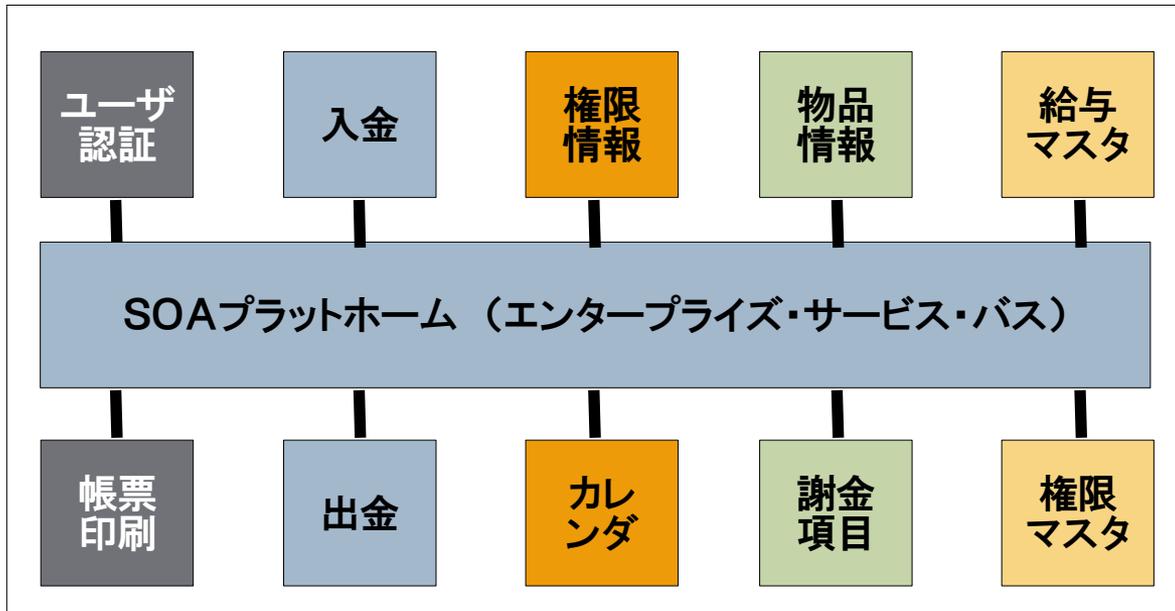
フライトシステムコンサルティング
三井物産戦略研究所
三菱電機

オープンスタンダード化支援コンソーシアム

システム形態3:SOA基盤(理想的手法)

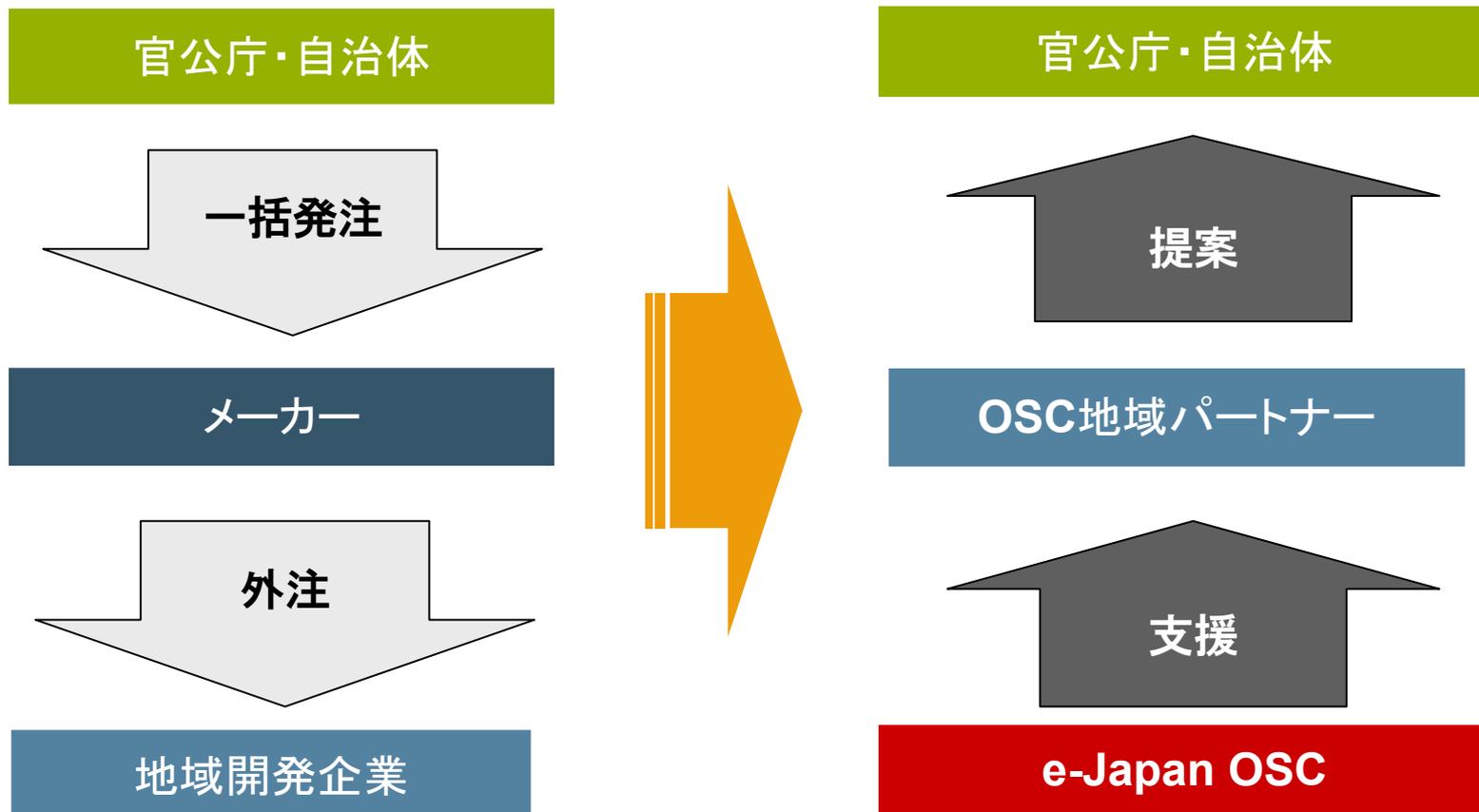


□ 小さなサービスを連携



- ◆ 統一的な連携データ
- ◆ システムやアプリケーションは小さなサービスの集合体
- ◆ オープンなサービスがベンダーフリーにする
- ◆ オープンなプラットフォームがコスト削減をもたらす
- ◆ 重複開発が避けられコスト削減が可能
- ◆ 変更に強い柔軟性と俊敏性のあるシステム

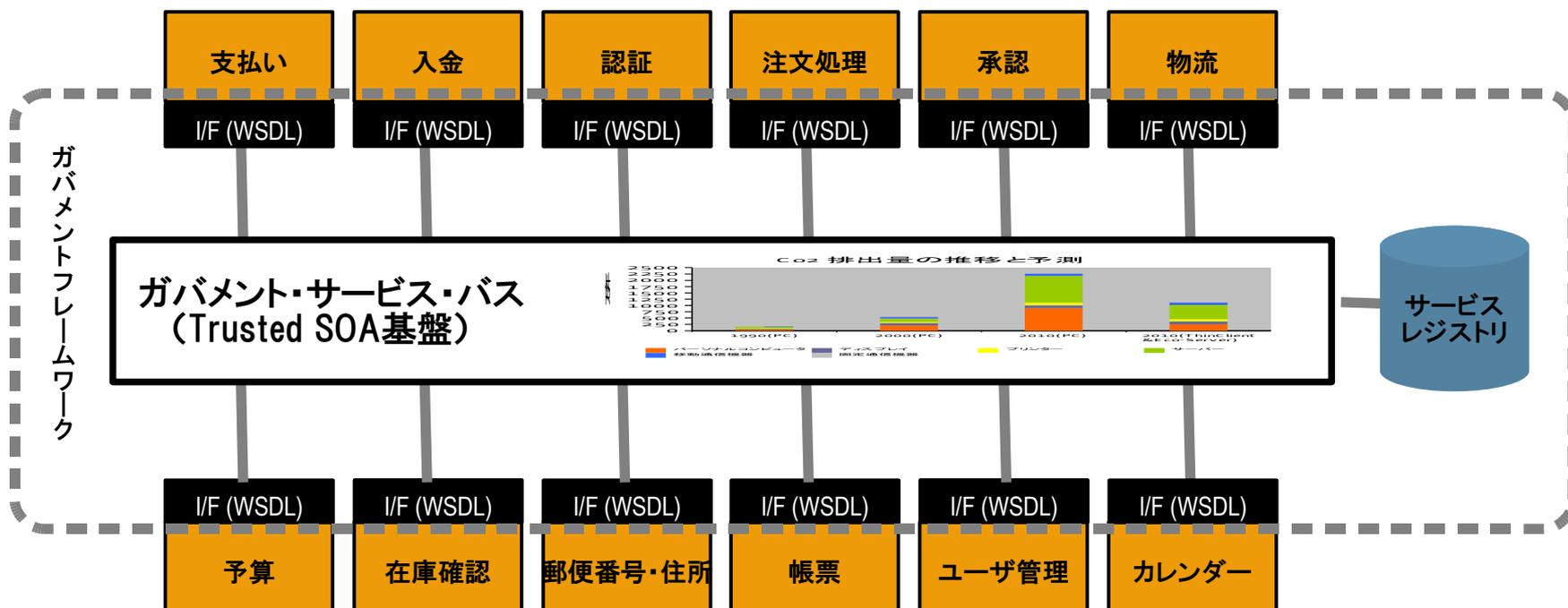
オープン化による変革



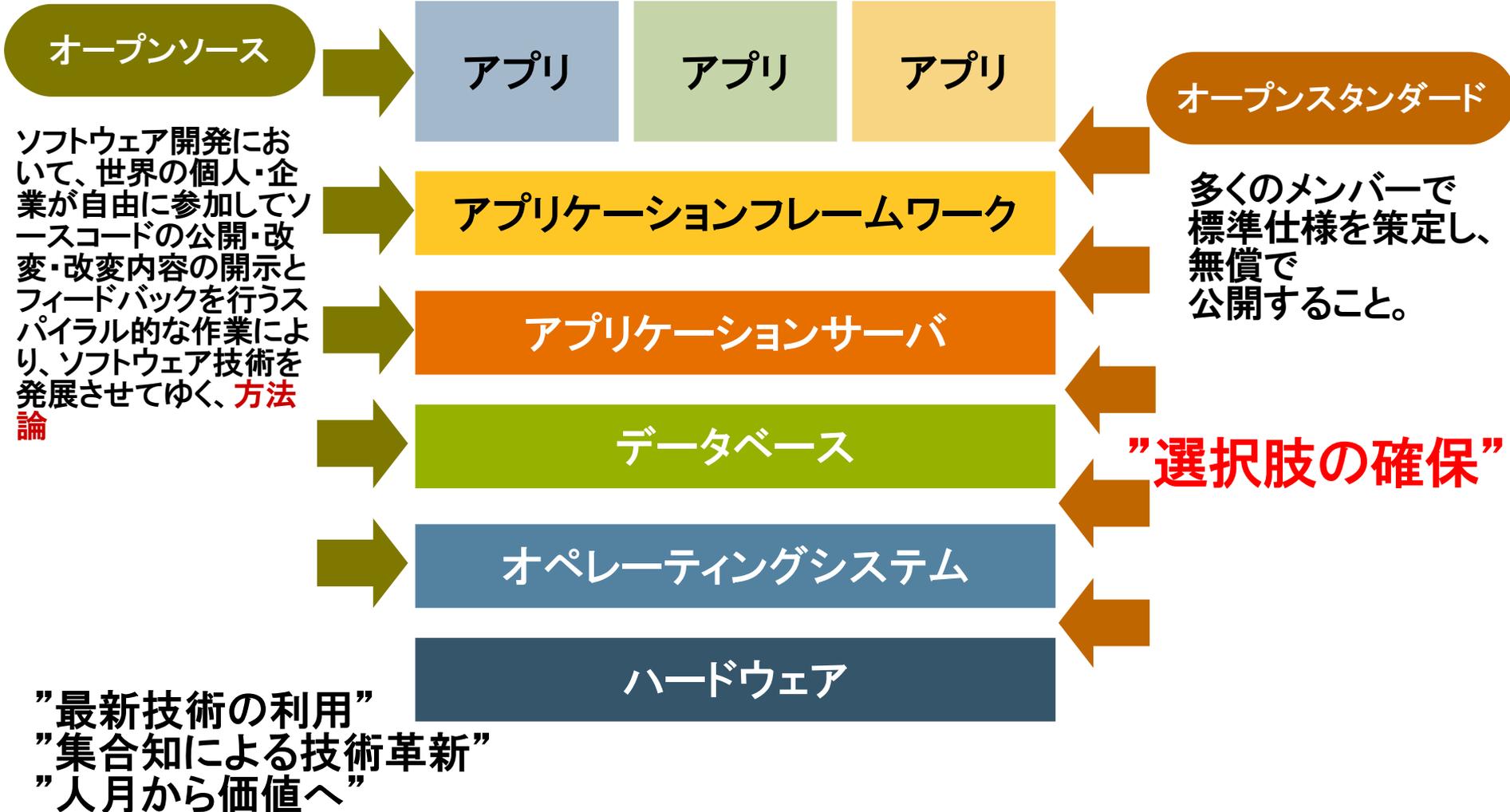
ガバメントフレームワークの開発



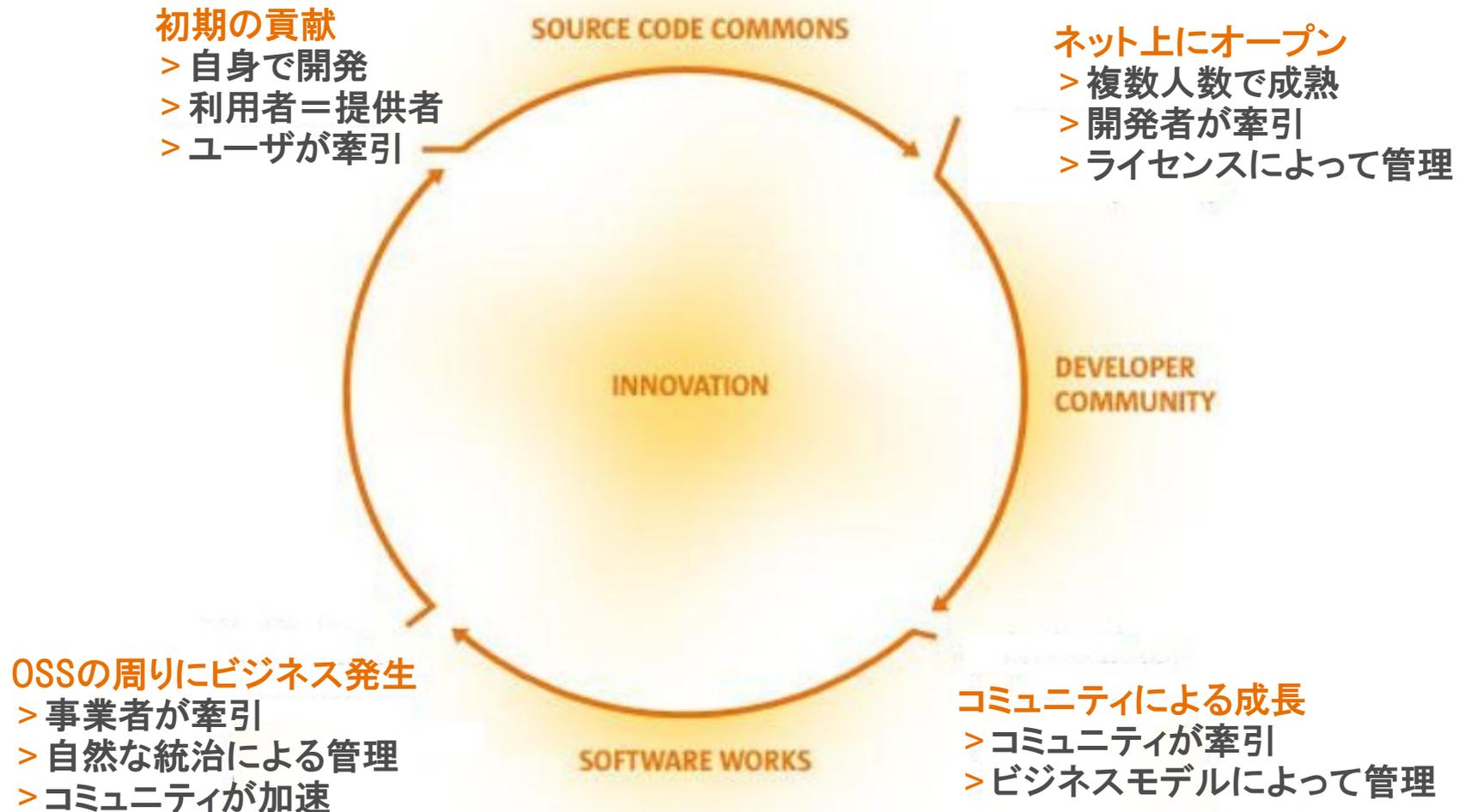
- 政府、医療機関などのサービスを統合するためのサービスインフラである「ガバメント・サービス・バス」
- 汎用的な独立した「サービス」を接続する「共通インターフェース」
- サービスの公開、検索、発見を構成する「サービスレジストリ」



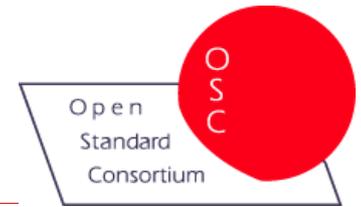
オープンスタンダードとオープンソースの活用



オープンソースのモデル



オープンソースの価値



- 本質的な民主主義
- 無駄な物は作らない(最大公約数)
- 良い物しか残らない
- 猛烈な技術革新
- 著作物のリスク分散
- 発展途上地域へのIT環境展開コスト問題の解消
- 世界中のコミュニティ形成

ユーザの利点

- **利用へのコスト軽減**
 - 気軽な採用
 - 柔軟な導入、柔軟なライセンス
- **ベンダーロックインが軽減**
 - ベンダーの市場参入障壁が低い
 - ユーザーのベンダーとの関係からの脱却障壁が低い
- **自身でカスタマイズが可能**
- **コミュニティ(無償)と一般企業(有償)からのサポート**
- **認められる価値にだけ支払えば良い**

各社スタンスの考察



□ 各社はどの価値に注力しているか？

	イノベーションパワー	OS	サービス	重点・フォーカス
	コミュニティ	Linux(OSS) AIX(独自OS)	顧客の経営まで進出 一環したサービス	コミュニティと自社能力の棲み分け サービスに重点
	自社のイノベーション コミュニティ	OpenSolaris(OSS) Solaris(Distribution)	高度なサービス中心	サービスより イノベーションに重点
	コミュニティ	Linux(Distribution)	付加価値サービス	商標権堅持 サービスでロックイン
	コミュニティ	Linux(OSS)	自社ソフトでサポート 付加価値サービス	スタック指向 サービスに重点
	自社	Windows(独自OS)	様々なサービス	ソフトウェアライセンス サービス

OSSのまとめ



- 開発者であれば・・・
 - 参加しよう(利用、開発、貢献)

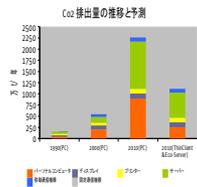
- ユーザーであれば・・・
 - 自身で利用してみよう

- インテグレータであれば・・・
 - 付加価値を創造しよう

IT市場の活性化



- システムアーキテクチャ変更と高度人材育成、ネットワーク上での開発がベンダーの参入障壁を低くし、ユーザの脱出障壁を低くしIT市場を活性化させる

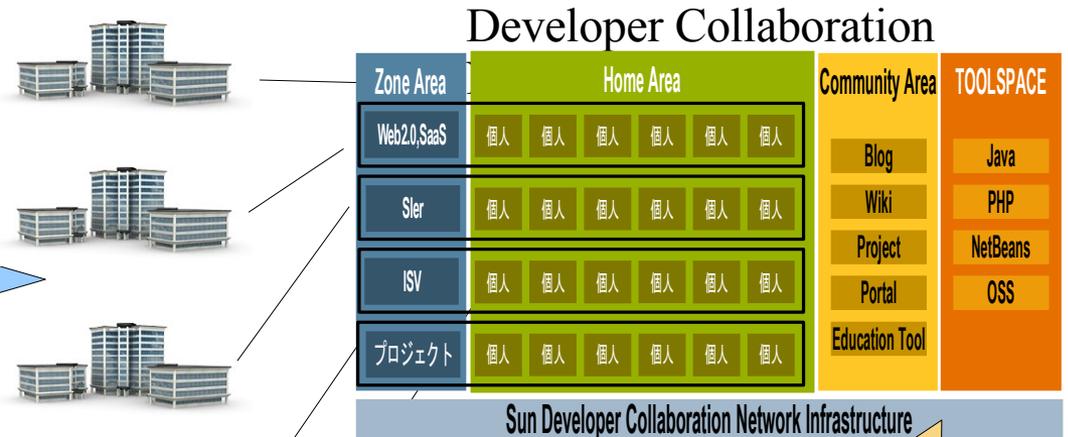


② 小さなサービス単位で開発を依頼可能

政府

① 真のSOAを採用

ユーザ認証	権限情報
帳票印刷	カレンダー
物品情報	給与マスタ
謝金項目	権限マスタ



開発会社

③ ネットワーク上の様々なコンテンツを利用して開発

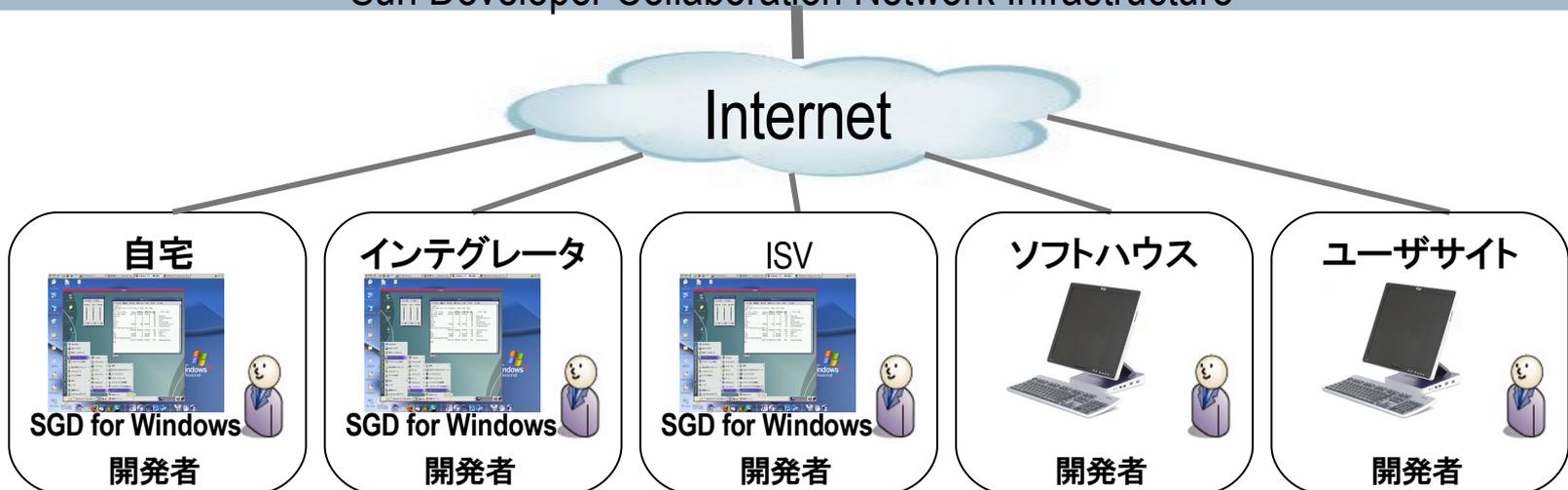
コンテンツ

- 教育 (IT 人材育成)
- ガバメントフレームワーク (開発統制)
- 再利用可能なコンポーネント & サービス
- コミュニティ
- オープンソース開発ツール

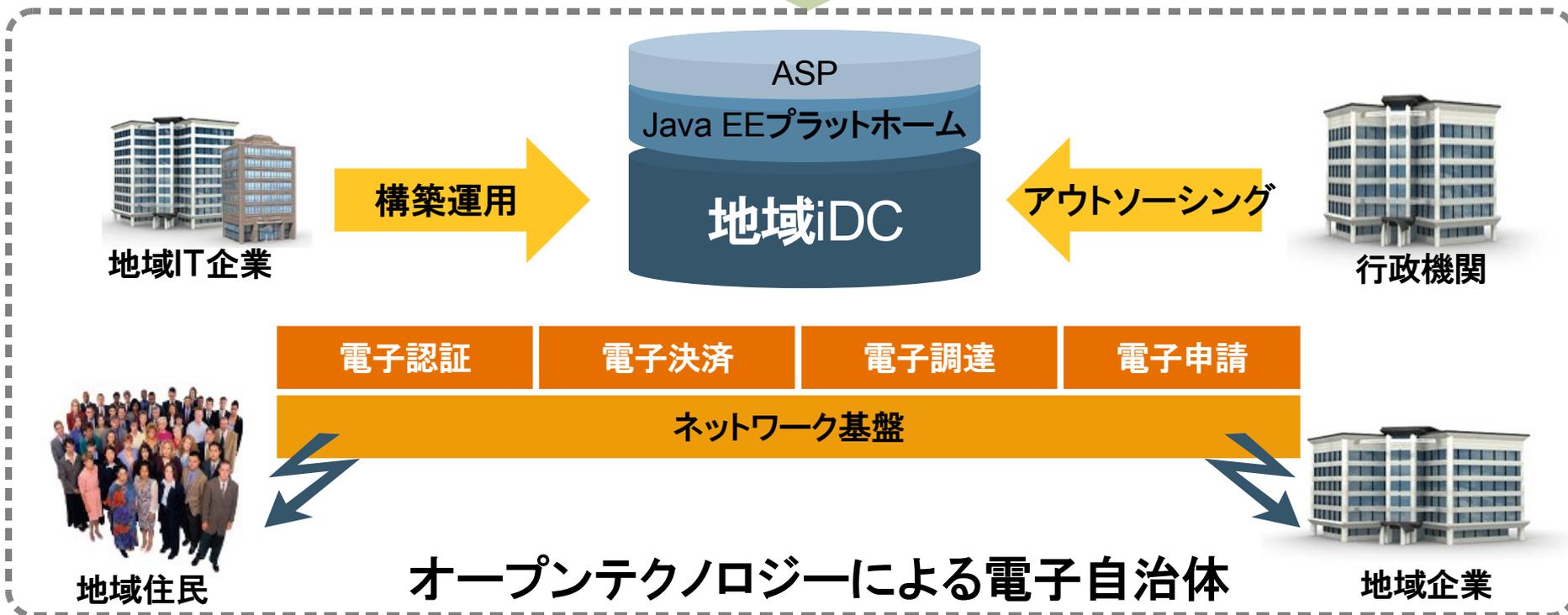
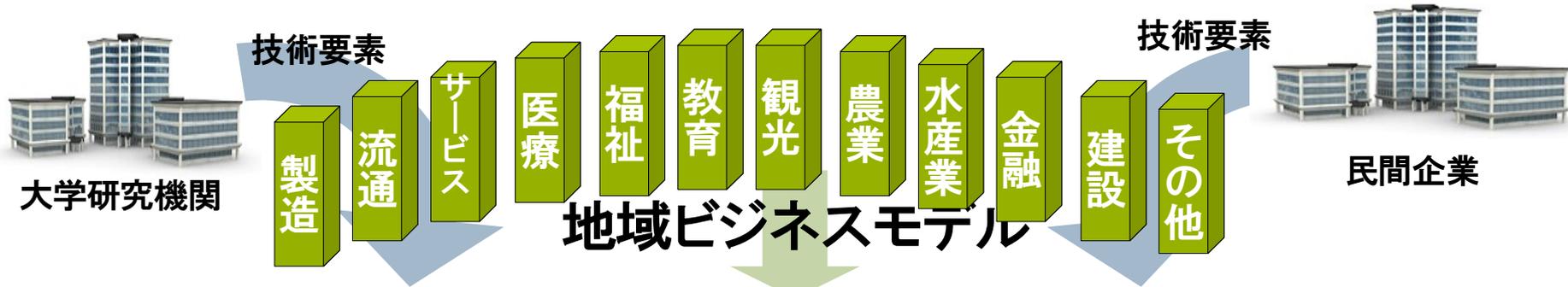
Developer Collaboration Network で 高度IT人材育成



□ セキュアなネットワーク上で開発環境を提供



地域自治体活性化に繋がる電子自治体構築



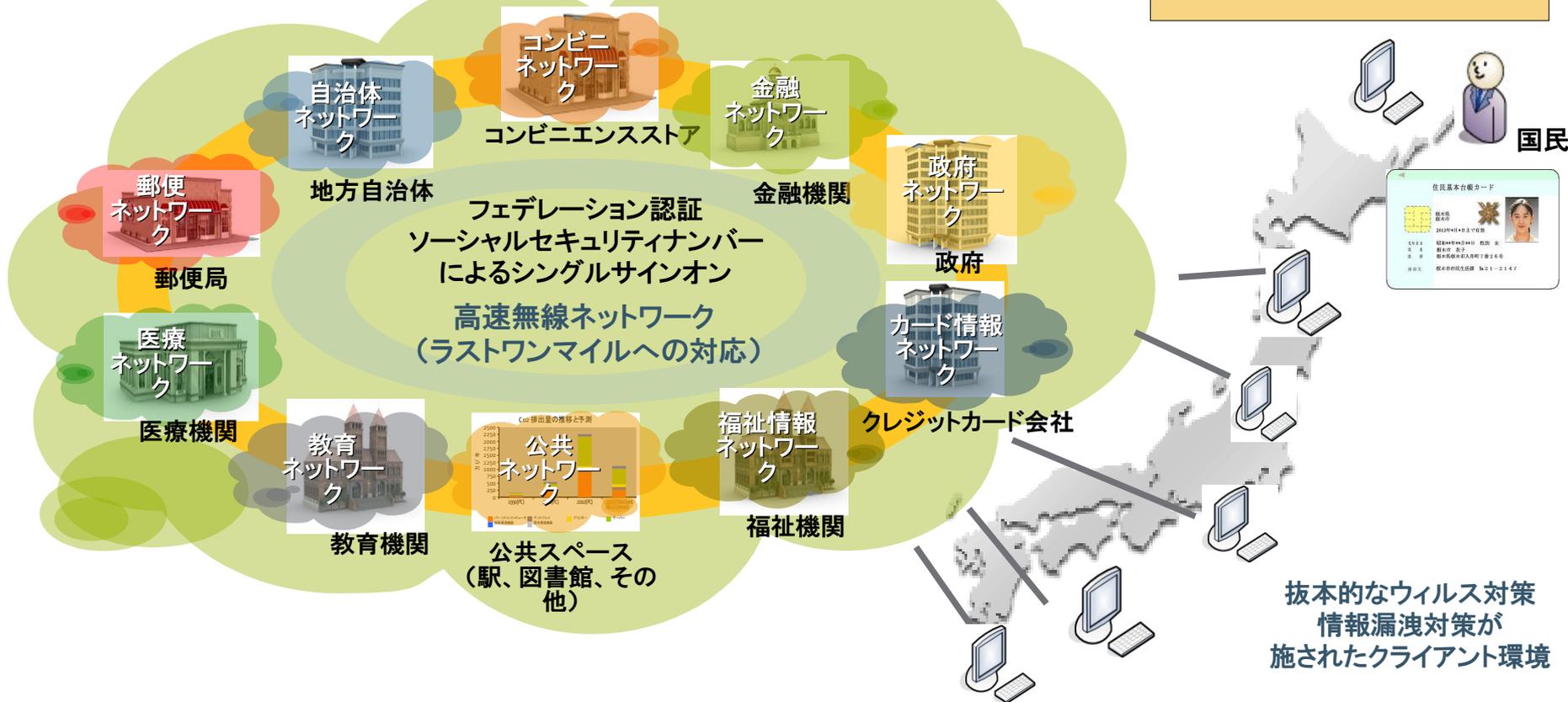
あるべき真のネットワーク社会



あるべき姿（統合されたネットワーク）

公的個人認証と民間認証の統合、医療データの仮想統合
 決済処理や支払処理の官民統合、行政手続と民間手続の統合

どの端末からでもカード一枚で
 安心・簡便にネットワークサービス
 をワンストップで利用できる



セキュアな技術基盤で実現するいつでも、どこでも、誰でもITの恩恵を実感できる社会

セキュリティの確保

セキュアにネットワークの統合

サービスの連携

利用率の拡大

OSSセミナー in 熊本

オープンスタンダードコンソーシアム

www.ejapan-osc.jp

代表幹事 中村彰二郎

shojiro.nakamura@sun.com

